

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	同上	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーター講座の実施や、地域包括支援センターとの情報交換などを主に行っています。現状は管理者と併設デイサービスの相談員での対応となっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	4回目の外部評価になりますが、改善に生かせていない部分もままあります。	○	評価の結果を今後のケアに活かして生きたいと思っています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	徐々に充実した会議になってきています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のHPを利用した空室状況の公開や、生活保護者に向けた料金設定など、市町村担当との連携を図りながら日々の運営を行っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状、左記制度を必要とされている方はいらっしゃいませんが、介護支援専門員更新研修などでも取り上げられる議題であり、内容については理解しているつもりであります。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義についても、各スタッフへ周知しています。(身体的な暴力だけが虐待ではない由)また管理者として話を聞き易い雰囲気のところを、内部で隠蔽する事の無いよう配慮しています。今年度は虐待について掘り下げた独自の研修を準備している所です。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>図っています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情は管理者ならびに法人本部へ報告し、すばやい回答を心がけています。また第三者(国保連や市町村、第三者委員)への相談が出来ることも重要事項説明書に明記し説明しています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は月一回、収支明細を全入居者家族に郵送しています。健康状況は個々に電話にて報告。異動についてはホームでの食事会や面会時当を利用してお話しています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>13に同じです。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は各スタッフの意見を聞く場として、ユニット会議を行っています。個々に話をする機会を特別に設けてはいませんが、スタッフは困ったことや意見があれば管理者に何でも話しているとのこと。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診や外出行事など人手が必要なときは、スタッフ数確保のためシフト表であらかじめ増員しておいたり残業してもらうなど、柔軟に対応しています。(そのぶん持ち出しが多く運営的には厳しいのが現状です。)</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者も少なくなり、人員配置も安定していることから、大がかりな異動は行わずに済んでいます。状況によって少数の交代を行いホーム全体で利用者全員のニーズ把握ができるよう配慮しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や高齢者福祉施設協会主催の研修になるべく参加できるよう配慮しています。また国家資格取得時の登録費用助成や資格手当での支給など、資格取得への支援を行っています。	○	ホーム内での独自の研修を企画していかなければと思っています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者福祉施設協議会主催のグループホーム部会や経営者の知己であるグループホームとの交流会を行っています。系列のホームと交流の機会を作り、情報交換を始めました。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室や喫煙所の提供、福利厚生(プロ野球のシーズンシートや職員旅行等)の充実によりストレス発散はもとより働く意欲の向上に努めています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の支援や人事考課、それに伴う給与・賞与の支払いなどで向上心を保てるよう配慮しています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前には必ず見学にお越しいただき、話をする機会を設けています。不安を訴えられる場合も含めて傾聴し、前向きに入居いただけるような働きかけを意識しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み前に必ず見学にお越しいただき、なぜ入居を検討されるのか伺っています。質問にもお答えし、不安や悩みを出来るだけ表出頂けるよう働きかけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービス以外の相談の電話も多く、希望されるサービスの事業所紹介や保険者への取次ぎなど、相談対応も行っております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ、ホームの雰囲気に慣れていただけるよう併設の通所介護利用をお勧めしています。また必ず入居前に見学にお越しいただき、不安の解消に努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす時間が家族より長いことから、共に暮らす家族に近い関係を目指しています。火事や日々の業務も助け合いながら行っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	さまざまな協力を依頼させていただきながら、サービスを提供しているのが現状です。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多種多様な関係のなかで、各入居者が落ち着いて生活できるような関係が継続・構築されるよう日々の援助を行っています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会はもちろん、面会自体が自由になっております。	○	なじみの場所訪問や、長年の夢などをかなえる支援制度をホーム内で検討中です。来年度中(平成21年度)には開始したいと考えております。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ユニット内の雰囲気作りのためにも、入居者個々の関係性が円滑に充実したものになるよう、日々支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	隣接する特別養護老人ホームに移動された入居者のご家族とも、関係が継続しています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の希望をかなえた生活を提供しています。	○	なじみの場所訪問や、長年の夢などをかなえる支援制度をホーム内で検討中です。来年度中(平成21年度)には開始したいと考えております。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦を把握するよう努め、ホームでの暮らしの中で快適な日々が送れるよう意識しながら援助しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフで基本の計画を作り、家族に意見を求めて修正する作成方法を取っています。基本としてカンファレンスに家族の参加は要請しておりません。	○	家族にもカンファレンスに参加いただくよう働きかけていく必要性を感じています。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフで基本の計画を作り、家族に意見を求めて修正する作成方法を取っています。基本としてカンファレンスに家族の参加は要請しておりません。随時見直しは行っています。	○	家族にもカンファレンスに参加いただくよう働きかけていく必要性を感じています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスはもちろん、隣接する特養やデイサービス・居宅支援・ショートステイなどと連絡を取り合い、さまざまな観点から支援できていると思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現状、左記機関と協力が必要な方はいらっしゃいませんが、要望や必要性があれば、支援してきたいと思います。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、左記機関と協力が必要な方はいらっしゃいませんが、要望や必要性があれば、支援してきたいと思います。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、地域包括支援センターの支援が必要な方はいらっしゃいませんが、要望や必要性があれば、支援してきたいと思います。地域包括支援センターとは運営推進会議等を通じて連絡を取り合っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医との協働は非常にうまくいっています。他の医療機関受診も自由です。周辺に多様な病院があるため、かかりつけ病院にこだわらず、ある程度の希望に応じた医療を受けられるよう支援しています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近隣の精神科医に定期的に受診し、指示を頂きながら治療をしていただいております。不安が劇的に改善されるなど、非常に良い状況になっています。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>隣接する特別養護老人ホームの看護師が当ホームの入居者の健康管理と医療活動の支援を行っています。今年度中(平成21年度)に看護師の配置が実現できそうなので、よりいっそう充実した支援が提供できるようになると考えております。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>ADLの低下予防の為に、なるべく早く退院できるよう、MSWなどと連携しながら援助を行っています。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現時点では医療連携も進んでおらず、重度化の傾向が見え始めた時点で今後の方針について主治医やご家族と話し合いをする機会を作っています。現状として終末期ケアの提供は困難です。</p>	○	<p>法人の趣旨として、重度化した場合には隣接する特別養護老人ホームを利用いただき、地域の入所先を探しておられる認知症高齢者の皆様にグループホームを利用していただくよう配慮し運営しています。【特養には要介護度が高い方しか入れず、要介護度の低い方が入所できる施設が当市には少ないため】</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>特別養護老人ホームが重度化した方専用の施設となっている現状からも、当ホームは比較的ADLの高い利用者が入居できる施設として地域からも期待されています。ホーム側ができること・できないことの見極めをおこない、出来ない場合の支援については法人を挙げて支援しています。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>左記のように努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	しておりません。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思や決定を引き出すよう、意識した援助を行っています。ADLが高い方が多いこともあり、掃除や食事の準備や片付けなどの家事も納得を得ながらスタッフと協働して行っています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	100%全員のペースを尊重できる余裕がないのが現状ですが、できる限り時間の制約や決まりごとを無くす、もしくは緩和するなどの支援を行っています、	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現状の理容・美容で満足されていらっしゃるようで、他の店に行きたいといった要望はありませんが、希望があれば可能な限り援助し低期待と思います。その日、着たい服などがあればその希望のあわせて支援しています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節の食材を用いて食事が出来るよう、献立・買出し、調理をすべて入居者とスタッフで行っています。もちろん調理・準備や後片付けも同様です。隣接する特別養護老人ホームから管理栄養士に来てもらい、検食を行っていただくことで、より充実した食生活になるよう配慮しています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な曜日と時間は決めてありますが、毎日お風呂を沸かしており、希望があれば入浴することが出来ます。チェアインバスも新たに導入し、下肢筋力の低下した方も安全に入浴できるようになっています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクや日課となっているユニット全員での散歩、外出行事などの提供で気分転換や楽しみの提供を行っています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については基本的に自由としてあり、ご家族の判断に従う形となっています。所持している方への支援は行っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り、本人の希望をかなえられるよう支援していますが、不可能な希望もあり100%ではありません。天候にもよりますが、かならず散歩の機会は提供し、ホームの中だけで一日が終わることのない様に支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来る限り、本人の希望をかなえられるよう支援していますが、不可能な希望もあり100%ではありません。家族と出かけられるように支援を行っております。	○	なじみの場所訪問や、長年の夢などをかなえる支援制度をホーム内で検討中です。来年度中(平成21年度)には開始したいと考えております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望にそって支援しております。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由となっており、スタッフも明るく挨拶するなど、訪ねやすい雰囲気作りを行っています。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが正確に理解しているとはいえませんが、虐待や拘束について注意を喚起し、行わないケアは実践しています。	○	具体的な禁止行為について、周知徹底を図っていこうと思います。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが大通りに面しており、交通事故予防の観点からも玄関の施錠を行っています。暗証番号を理解できる方は開錠し、外に出ることも出来るようになっていきます。	○	解決法を検討するもずっと解決できずしております。評価調査員のご意見を伺い、参考にしたいと思っております。具体的な解決策が見つからない限り、方針を変えることはリスクの大きさから不可能と考えております。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認や様子観察はこまめに行っております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況によって対応していますが、台所の刃物と内服薬はホームで管理しております。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告を些細なものでも提出し、以後に役立て予防に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部で緊急時の対応方法を再確認しております。訓練は行ってありません。	○	来年度(平成21年度)には法人研修にて救急法指導を受けることが出来るよう調整していくこととなっています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練を行い、隣接する施設と連携した防災活動の訓練を行っております。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、状態の変化が散見されるときなど、こまめに報告しています。ホームとして行っていく援助方針の説明などもあわせて行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	結び付けています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を見やすく整理し、主治医や精神科医に状態を報告することで適切な服薬が可能になるよう支援しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士による献立チェック・検食と、意識的な水分提供によって便秘の方はほとんどいない状況です。便秘傾向のある方には主治医の指示を仰ぎ対応しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や肥満傾向などに合わせて食事量を調節し援助しています。水分は意識的に多めに提供しよう心がけています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のため、手洗いうがいのルールが決まっています。また一日一回、手の触れる回数が多い場所の塩素消毒を行っています。インフルエンザ流行のシーズンは、全スタッフ、全面会者にマスクしよを義務づけ、予防に努めています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は入居者とスタッフで1日おきにおきにおき、自らの目で選んだ食材を使用した食事を作っています。感染症予防の取り組みも法人ぐるみで行い、衛生管理の徹底を図っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植物を植えるなどの装飾を行っています。また裏庭に家庭菜園を作り、近隣の方から声を掛けられることもしばしばあります。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の悪い空間は当ホームにはございません。温かみのある雰囲気作りに配慮しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になりたいという方はいらっしゃいません。そのような時は、皆さん自室に戻られることが多いようです。面会や気の合った仲間と過ごせるスペースは準備させていただいております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、火気の発生を伴う物品以外は自室へ持ち込むものの制限は設けておらず、居心地の居室が出来上がっています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調調節、加湿など、季節に応じて調節しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを全ての場所に設置し、各居室の扉も吊り式のものとし、軽い力で開閉できるように工夫してあります。夜間もフットライトを設置し転倒予防に努めています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレを解り易くするための表示や、居室札の個別化などで工夫しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダへの出入りは自由にしており、大型のバルコニーでお茶を飲むなど、有効に活用しています。花の水遣りを日課にされている方もいらっしゃいます。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

将来的な安心を約束できる介護ノウハウを蓄積している安定した社会福祉法人の運営する数少ないグループホームとして日々がんばっています。利用の敷居を低くする為費用を低く抑えるとともに、通院は家族任せにし負担増大を招かないよう、基本的にスタッフで対応することで状態把握の一助としています。待機者が多数にのぼっていることから、当ホームのり援助や環境が利用者や地域に認められていると実感しております。また広い共有スペースを生かした援助を提供すると共に、併設しているデイサービスや地域に開放している多目的ホールなどを活用し地域との交流を進めています。隣接する特別養護老人ホームとも密接に連携し、互いにレクや行事を企画・実施するなど、地域で最後まで楽しく穏やかに暮らせる環境を整えております。

今年度は利用者の皆様がかねえられなかった夢を実現したり、どうしても行ってみたい所へいけるような支援制度をホーム独自に作ろうと考えています。生きる力の源をどんどん増やすことが出来るような皆様の「家」になれるよう頑張っていきたいと思っています。